



Title	「デザイン理論」投稿規定/「デザイン理論」執筆要領/奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 2008, 53, p. 141-143
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/53368
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「デザイン理論」投稿規程

1. 内 容：デザインに関する未発表の論文、研究報告等。
2. 投稿資格：本会会員
3. 採 択：採否及び掲載号については編集委員会が決定する。
4. 査 読：学術論文については、編集委員会が査読者2名に依頼する。査読結果は編集委員会が本人に通知する。結果は、(A)無条件採用、(B)条件付採用、(C)不採用とする。
5. 執筆要領：別に定める。
6. 提出期限：基本的には随時。ただし、学術論文は、査読のため、5月春号掲載希望は、1月15日、11月秋号掲載希望は、6月30日を締め切りとする。

昭和37年11月11日改正、昭和60年11月8日改正
平成2年11月10日改正、平成6年7月9日改正
平成14年11月9日改正、平成18年11月18日改正

学術論文以外は、これは投稿予告の期限で、実際の投稿期限は、それぞれ3月31日、8月31日とする。

7. 提出先：意匠学会編集委員会

付記（著作権について）

- ・本学会誌に掲載された論文の著作権および編集出版権は本学会に帰属するものとする。
たとえば論文集または電子データの形で出版する権利、またデジタル・アーカイバ化等の権利である。
- ・ただし著者本人が利用する場合には制約を受けない。
なお以上の規程は、平成18年11月18日より発効する。

「デザイン理論」執筆要領

平成17年7月23日 改正

1. 原 稿

- ・原稿は、ワープロあるいはパソコン・ソフトで作成することが望ましい。
- ・A4大の用紙に1行40字、1頁32行程度で作成すること。
- ・学術論文の場合は、A4サイズのレイアウト見本3部同封して編集委員会宛に投稿すること。(テキスト・データ、図表版下あるいは図表データは査読を経て掲載が決まった段階で、最終原稿として最終的なレイアウト見本とともに編集委員会宛に郵送する。)
- ・研究報告の場合は、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を郵送する。
- ・書評、図書紹介、発表要旨については、テキストおよび図表データとA4サイズのレイアウト見本を編集事務局に郵送するか、あるいは編集担当者に電子メールに添付して送付する。
- ・学術論文、研究報告、等の本文データのファイル形式はプレーン・テキストかワードに限る。
- ・学術論文、研究報告、等の図表をデータで提出する場合、ファイル形式はJPEG、TIFF等の一般的なものとし、解像度、画像サイズ等を適切に設定すること。またその場合も必ずデータのプリントアウトを添付すること。
- ・原稿用紙を使用する場合は、本文は400字詰横書き原稿用紙を使用し、レイアウト見本を付す。

- ・投稿に際しては、原稿のコピーを手許に保存すること。

2. 原稿の分量

- ・学術論文と研究報告の場合は、本文、図版、図表、注等をすべて含めて、刷り上りで、14頁以内。(400字詰原稿用紙で約45枚)
- ・書評の場合は、刷り上りで2頁、4頁、6頁等偶数頁に収まることが望ましい。
- ・図書紹介及び発表要旨の場合は、刷り上りで2頁に収めること。

3. 原稿の構成

- ・学術論文と研究報告の場合は、本文（図版、図表、注を含む）とは別に欧文要旨（原則として英文）を添付すること。
- ・本文第1頁に、表題、著者名、所属機関名、キーワード、目次を付すこと。
- ・欧文要旨は、刷り上り1頁とする。語数は約200語。当該言語を母国語とする人による校閲を得ておくこと。
- ・キーワード（和文と英文）は、それぞれ5語以内とする。

4. 図・表のレイアウトなど

- ・図版はモノクロームとし、位置の指定、大きさ、レイアウト、必要なトリミングなどはすべて執筆者が行うこと。
- ・図版などの著作権の問題があると思われる場合は、執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。
- ・当学会は、著作権についての責任は負わない。

編集後記

本号は目次に「2008／秋」と銘打ちながら発行が大幅に遅れましたこと、お詫び申し上げます。これは、投稿論文の査読過程の見直しを行ったことで、編集作業全体に要する時間がこれまでより長くなつたためでした。

査読は、投稿者にとってはもちろん、査読者にとっても、そして本会会員にとっても大切な過程です。投稿者にとって、避けては通れぬ少々気の重い閑門ですが、同時に、内容の一層の充実を図る好機でもあります。査読者にとっても、その名は秘されているとはいえ、自らの見識が問われるなかなか厳しい場面です。こうした過程を経た学術論文が会員の前に提出されることで、それは意匠学のさらなる発展の駆動力となるでしょう。

このような考え方から、査読の各過程に適切な時間と若干の余裕をもたせました。本号は改変期のためこのような事態となりましたが、今後はこれを安定させてまいります。

ところで、念のために申し添えるのですが、編集委員会は査読を行う機関ではありません。査読が適正に進行するよう管理・運営するのが用務です。もちろん印刷所への入稿事務も行います。コンピュータとネットワークがこれだけ普及した現在、この生産過程も見直すべきときに来ているようです。こした課題に、本号から新編集委員会メンバーで取り組みます。表紙デザインでは、肥後ユキコさんの新シリーズが始まりました。引き続き皆さまのご協力とご支援をお願い申し上げます。

そして、これまで編集委員長として『デザイン理論』を支えてくださつた渡辺真先生、旧委員の皆さま、ありがとうございました。

(梅宮弘光)

編集委員

今井美樹	梅宮弘光（委員長）
要真理子	櫛 勝彦 佐藤敬二
末包伸吾	常見紀美子 並木誠士
橋本英治	三木順子 藤 亨

デザイン理論 53号

Journal of the Japan Society
of Design, 53/2008

発行日 2008年12月20日

発行 意匠学会

事務局 〒566-8501

大阪府摂津市正雀1-4-1

大阪人間科学大学内

FAX : 06-6381-3502

e-mail : ohs-ishou-g@kun.ohs.ac.jp

発行者

意匠学会 編集委員会

〒657-8501

兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 梅宮研究室

TEL/FAX : 078-803-7806

e-mail : design.riron@gmail.com

編集責任者 梅宮弘光

印刷所 (株)北斗プリント社
